

推薦する取り組み	園館名
テッポウウオ類におけるアリ類を用いた摂餌生態展示	下関市立しものせき水族館

推薦理由

テッポウウオ科魚類は口から水を飛ばし、昆虫類などを撃ち落として摂餌することが知られています。テッポウウオという名前から水鉄砲で撃つと称される摂餌行動です。

多くの水族館では餌料を撃ち落とす摂餌生態を数分から十数分の給餌解説という方法で解説しています。しかし、給餌解説時以外では、餌がないため、観覧者はその摂餌生態を見ることはまずできません。そのため、多くの来園者には、解説文等での紹介しかテッポウウオの摂餌生態を知る機会がないこととなります。そこで、水槽上部にアリを歩かせ、給餌解説の決まった時間ではなく、テッポウウオ自身がアリを発見した時に、テッポウウオが持つ習性からアリを水で撃ち落とす行動をするようにしました。また、ただ水鉄砲を出すだけではありません。止まっている餌を撃ち落とす際は、餌が動かないので一度の水鉄砲で餌を容易に撃ち落とす事が出来ますが、アリは常に動いているため、テッポウウオも常に動いているアリに照準を合わせながら水鉄砲を出すこととなります。

また水鉄砲が当たっても必ず落ちてくるとは限らないため、一匹に何回もの水鉄砲を出すこととなります。これはヒトが用意した止まった餌では観察できない姿です。全てのアリが撃ち落とせるように水槽上部に配置すると、1日に数百個体ものアリが摂餌されてしまうので、撃ち落とされるアリが最少で済むように、水槽上部に設置した透明なチューブの中と、外にアリを歩かせ、チューブの外のアリしか撃ち落とせないようにすることで、水鉄砲の頻度を維持できるようにしました。

アリの仲間は、一時期しか羽根が生えておらず、移動範囲の制限が行いやすい特徴があります。このアリを用いることで決められた時間に摂餌するだけでなく、餌を見つけて、食べたい時に摂餌する野生に近い行動を引き出す展示が実現する事が出来、来館者にも本来の摂餌行動を観察してもらえる機会を作ることができています。

